

前立腺生検承諾書

あなたは、前立腺特異抗原 P A (P S A) が高値で、前立腺癌の疑いがあります。前立腺癌の診断には、前立腺の組織検査が必要です。当科では超音波ガイド下に経直腸前立腺生検を実施しています。(前立腺の大きさによって6～12箇所。) 検査時間は10分ほどで、麻酔なしで、生検針を刺す痛みはほとんどありません。生検後、血尿、直腸からの出血、精液に血が混じるなどの症状が出る場合がありますが、通常1～2週間で軽快します。まれに急性前立腺炎を起こし、発熱、排尿困難、排尿痛をきたすこともあります。急性前立腺炎から、敗血症に移行し、死亡された方もごく少数ですが報告されており、特に糖尿病の方はリスクが高く注意が必要です。前立腺肥大の症状がある方は、前立腺炎を伴わなくても、排尿困難が増強することもあります。検査結果は土日をはさまなければ、3～4日で出ます。通常1週間後に来院していただいております。

- ・ **感染** 生検後の発熱の頻度は0.1～4%。敗血症の頻度は0～0.5%。感染予防のため生検前に抗菌剤の内服をしていただき、生検後抗生物質の点滴をさせていただきます。
- ・ **血尿** 生検後の血尿の頻度は50%前後です。頻度は高いですが、程度は軽微で通常処置を必要とすることはありません。血尿が強いつきは一時的にカテーテルを挿入することがあります。
- ・ **血精液症** 頻度は20%前後で通常1ヶ月以上持続しますが、特に処置を必要とすることはありません。
- ・ **直腸出血** ほとんどの例で認められますが、出血の程度は軽微で1回目の排便時に少し自覚する程度です。まれに痔の血管が拡張している方や、慢性肝炎、肝硬変の方では出血が持続し肛門鏡による止血が必要な場合があります。
- ・ **迷走神経反射** 生検中、生検直後、迷走神経反射による血圧低下、発汗、徐脈がときに生ずることがあります。点滴や昇圧剤の投与が必要な場合があります。
- ・ **尿閉** 生検後、尿が出なくなりカテーテル挿入が必要になる頻度は0.2～2.6%で、前立腺肥大の程度が強いほど、生検前の排尿困難の程度が強いほどおこりやすく、おこった場合は一時的にカテーテルを挿入することで対応します。
- ・ **基礎疾患** 糖尿病、弁膜症、アレルギー疾患、肝硬変の方、また人工血管、ペースメーカー、人工弁など人工物の体内に入っている方は注意が必要です。
- ・ **薬剤** 抗凝固剤、抗癌剤、免疫抑制剤(ステロイドなど)を内服されている方は生検前に一時的に服用を中止する場合があります。

帰宅後に血尿が強くなったり、発熱、排尿困難、排尿痛が出現した場合は、病院に連絡してください。

市立枚方市民病院 072-847-2821

前立腺生検の必要性、施行方法、合併症の説明を受け、生検を受けることに同意しました。

年 月 日

氏名

印